

## 吉川理事長、中国科学院を訪問しイノベーション関連共同シンポジウムを開催

2004年5月、産総研・中国科学院（CAS）の包括研究協力協定を締結し（路甬祥院長来日）、これを踏まえた具体的アクションとして、2005年11月、日中双方に相互補完的連携のメリットがある環境・エネルギー分野に焦点をあてて、AIST・NEDO-CASの主催で、北京で全体会合、バイオマスなど再生可能エネルギーをテーマとしたワークショップを広州で開催しました。これに引き続き今回、2006年3月開催の全人代直後、全人代において正式承認された中国の第11次5カ年計画が2006年からスタートするタイミングにあわせ、吉川理事長が中国科学院を訪問し路院長と意見交換を行い、2006年3月24日には、中国科学院とのイノベーション（中国語で「創新」）に関するシンポジウムを開催しました。

シンポジウムでは、吉川理事長と路院長の講演が行われ、中国科学院をはじめ中国社会科学院、清華大学、北京大学等の研究者および管理者、日本大使館やNEDO、JETRO等現地日本関係者、合わせて300人あまりが来場し、会場はほぼ満席で、講演後、中国の若い研究者から国際連携のあり方などについて質問もあり、活発な意見交換が行われました（それぞれの講演概要は



シンポジウムで講演する吉川理事長



中国科学院・路甬祥院長（左）と吉川理事長

表のとおりです）。

吉川理事長は、同日、清華大学を訪問、産総研運営諮問会議委員である顧秉林学長に本年2月の来日、運営諮問会議出席の御礼を述べるとともに、イノベーション・マネジメント関連、今後の産総研との連携強化等について意見交換を行いました。顧学長からは、清華大学の歴史、胡锦涛主席ら国家の

中枢を担う人材が多く輩出していること、医学部を新設するなど中国のトップレベルの研究を展開し、米国を含め多くの海外の大学・研究機関とのネットワークを重視、企業（欧米や日本、香港や台湾も）との連携を強化していること、等の詳しい説明があり、産総研との連携への期待が述べられました。

### 【中国科学院・産総研“イノベーション”共同シンポジウム】

日時：2006年3月24日

会場：中国科学院文献情報中心（北京・中関村）

#### ・吉川理事長の講演内容

##### 「産業技術総合研究所におけるイノベーションへの取り組み」

日本のイノベーション、産総研のイノベーションハブ推進、第3期科学技術基本計画を踏まえた産総研の第2期研究戦略、産総研が進める本格研究の理念と事例、本格研究の社会への展開、等について講演。

#### ・路院長の講演内容

##### 「未来に向かう中国科学院」

中国科学院の歴史的役割、研究分野構成の改革と優先領域、人材育成システム、イノベーションに取り組む組織体制改革、国際連携、等について講演。

## "サイエンス・スクエアつくば"で「福祉特別展」を開催

この4月に展示内容をリニューアルした「サイエンス・スクエアつくば」では、2006年の科学技術週間（4/18～4/23）に合わせて、産総研が行っている「福祉」関連の研究をテーマにした特

別展を開催しました。

“社会のために” 研究開発を進めている産総研の研究成果の一端をご覧いただけたものと思います。

期間中、多くの方々にご来場いただ

きました。今後も体験コーナーやいろいろな企画をご用意する予定です。「サイエンス・スクエアつくば」にご期待ください。



## 新役員の紹介

おの あきら  
小野 晃 (理事)

昭和21年12月11日生

東京大学大学院理学系研究科物理専門課程博士課程  
修了  
理学博士



略歴:

昭和49年 工業技術院計量研究所 入所  
昭和54年 第2部熱学計測課主任研究官  
昭和61年 熱物性部熱学計測研究室長  
平成5年 計量研究所研究企画官  
平成8年 熱物性部長  
平成13年 独立行政法人 産業技術総合研究所計測標準研究部門長  
平成13年 研究コーディネータ (社会基盤 (標準) 担当) 兼務  
平成16年 研究コーディネータ (社会基盤 (標準) 担当)  
平成17年 研究コーディネータ 標準・計測担当  
平成18年 独立行政法人 産業技術総合研究所理事 (現在に至る)

かとう ひろかず  
加藤 碩一 (理事)

昭和22年9月14日生

東京教育大学大学院理学研究科博士課程中退  
理学博士



略歴:

昭和50年 工業技術院地質調査所 入所  
昭和55年 環境地質部地震地質課主任研究官  
平成元年 地質部層序構造課長  
平成3年 国際協力室国際地質課長  
平成7年 地質調査所首席研究官  
平成10年 環境地質部長  
平成11年 地質調査所次長  
平成13年 独立行政法人 産業技術総合研究所 地球科学情報研究部門長  
平成15年 東北センター所長  
平成18年 独立行政法人 産業技術総合研究所理事 (現在に至る)

やまざき まさかず  
山崎 正和 (理事)

昭和24年8月1日生

早稲田大学大学院理工学研究科修士課程修了



略歴:

昭和49年 工業技術院公害資源研究所 入所  
昭和58年 公害資源研究所公害第4部第1課主任研究官  
(公害資源研究所は平成3年に資源環境技術総合研究所に組織変更)  
平成7年 資源環境技術総合研究所熱エネルギー利用技術部熱利用研究室長  
平成13年 経済協力開発機構 (OECD) 国際エネルギー機関 (IEA) 上席  
エネルギー技術専門家  
平成15年 独立行政法人 産業技術総合研究所エネルギー利用研究部門  
副研究部門長  
平成16年 環境管理研究部門研究部門長  
(その後組織再編により環境管理技術研究部門研究部門長)  
平成18年 独立行政法人 産業技術総合研究所理事 (現在に至る)

とさか かおる  
戸坂 馨 (監事)

昭和17年3月15日生

東京大学工学部電気工学科修士課程 修了



略歴:

昭和41年 日本電気株式会社 入社  
平成6年 取締役支配人  
平成10年 常務取締役  
平成14年 NEC エレクトロニクス株式会社 代表取締役社長  
平成17年 取締役相談役  
平成18年 日本電気株式会社 特別顧問 (現在に至る)  
平成18年 独立行政法人 産業技術総合研究所監事 (現在に至る)

4月10日現在

[http://www.aist.go.jp/aist\\_j/event/event\\_main.html](http://www.aist.go.jp/aist_j/event/event_main.html)

## EVENT Calendar

2006年5月 → 2006年7月

●は、産総研内の事務局です。

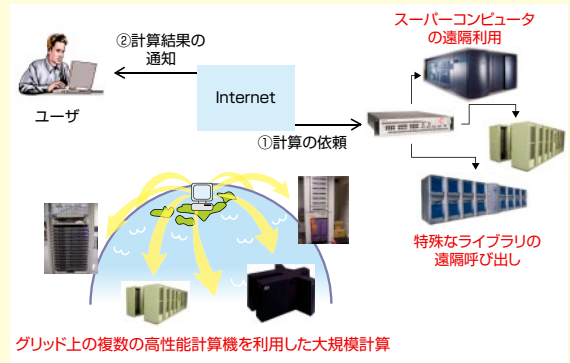
期間	件名	開催地	問い合わせ先
<b>5 May</b>			
16日	バイオパワー勝田見学会ならびにバイオマス関連講演会	茨城	029-861-8214●
30~31日	人工筋肉コンファレンス ナノテクとバイオの融合研究 -人工筋肉開発の展望-	東京	072-751-9180●
31~6月2日	DSCアジア/パシフィック2006 -ドライビング・シミュレータ国際会議2006-	つくば	029-861-6630●
<b>6 June</b>			
6日	ヒューマンストレス産業技術研究会講演会「酸化ストレスマーカーの開発と応用」	池田	072-751-9991●
<b>7 July</b>			
4~5日	バイオウィーク in Sapporo 2006 -特殊環境微生物の最新研究動向と産業応用-	札幌	090-7655-0344●
12~13日	環境工学総合シンポジウム 2006	東京	03-5360-3505

## 「世界をつなぐグリッドの実現に向けて」

グリッド研究センター 基盤ソフトチーム 田中 良夫さん

### グリッドとは？

グリッドは「インターネットに代表されるネットワーク上の情報資源（サービス）を安全に、安定して、簡単に、利用する基盤技術」です。最近では、科学技術分野だけでなく産業界などでも積極的に利用されるようになってきています。高速ネットワークで接続されたスーパーコンピュータを1台の仮想的な超スーパーコンピュータに見立てて利用するメタコンピューティング、計算機やデータサーバの共有によるコスト削減や必要に応じて複数のサービスを組み合わせた上位サービスの提供など、グリッドの用途は多岐に渡ります。



グリッド上の複数の高性能計算機を利用した大規模計算

Ninf-Gとは、「計算の処理の一部をネットワーク経由で遠隔実行 (Remote Procedure Call) させる」というアイデアに基づくプログラミングミドルウェアです。

### 簡単に使える安全・安心なグリッドの実現に向けて

田中さんたちは、地理的に分散された複数の計算機上で動作するアプリケーションを、簡単に開発し、実行するためのプログラミングミドルウェア「Ninf-Gシステム」の研究開発を行っています。Ninf-Gを用いて分子シミュレーションを実装し、日米の合計6台の大規模クラスタ計算機を用いた実証実験では、1台のPCでは約17年かかる計算を約20日間でこなすことに成功しました。グリッドが大規模科学技術計算の基盤として実用可能なレベルにあることを示したものです。また、計算機やデータベースなどを共有するグリッドにおいては、セキュリティの確保は重要な項目です。田中さんはアジア太平洋セキュリティポリシー策定委員会の議長として、アジア太平洋地域のセキュリティポリシーを策定し、欧米のポリシー策定委員会と連携して全世界的な信頼関係を構築する活動を行なっています。



### 田中さんからひとこと

私は「国際貢献」をキーワードに、成果が実際に世界中の人たちの役に立つことを目指して研究を進めています。私たちが開発しているNinf-Gは2005年10月に米国科学財団(National Science Foundation, NSF)が提供する標準グリッドソフトウェアパッケージNSF Middleware Initiative (NMI) Release 8に導入され、公開されました。NMIに米国以外の機関が開発したソフトウェアが導入されるのは世界で初めてであり、これはNinf-Gのソフトウェアとしての成熟度および有用性が評価されたことを示すと同時に、今後グリッドにおけるアプリケーションを開発する際の標準的なソフトウェアとしてNinf-Gが世界で広く利用されるものと自負しています。また、アジア太平洋セキュリティポリシー策定委員会議長として、欧米と連携しながらグリッドを安全・安心な全世界の情報処理基盤として実用化するために尽力していきたいと思っています。

産総研  
TODAY

2006 May Vol.6 No.5

(通巻64号)

平成18年5月1日発行



独立行政法人  
産業技術総合研究所

編集・発行 独立行政法人産業技術総合研究所  
問い合わせ 広報部出版室

〒305-8568 つくば市梅園1-1-1 中央第2

Tel : 029-862-6217 Fax : 029-862-6212 E-mail : prpub@m.aist.go.jp

ホームページ <http://www.aist.go.jp/>

● 本誌掲載記事の無断転載を禁じます。● 所外からの寄稿や発言内容は、必ずしも当所の見解を表明しているわけではありません。

